

May 24, 2026

教会の誕生 使徒 2:40-42

2:40 ペテロは、ほかにも多くのことばをもって証しをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って、彼らに勧めた。

2:41 彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。

2:42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

一、聖霊と教会

きょうはクイズを3つ出します。最初のクイズはこれです。

A、B、C. のどれが正解でしょうか。

クイズ 1. 教会は誰によって始められましたか？

A. 聖霊によって

B. ローマ皇帝コンスタンティヌスによって

C. マルチン・ルターによって

正解は、「A. 聖霊によって」です。

イエスが天にお帰りになった後、120人の弟子たちが、エルサレムに集まって、9日の間祈り続けていました。10日目、日曜日の朝9時ごろ、「ゴーツ」という風の音が街中に響き渡り、そこにいた弟子たちひとりひとりの頭の上に舌のような形をした炎が灯りました。この炎は聖霊を表わします。イエスが約束されたように、聖霊が弟子たちに降ったのです。炎が頭の上にあるのは、聖霊が天からくだってこられたお方であることを意味します。炎がすぐに消えてなくならず一人ひとりの上に留まったのは、聖霊は一時的に訪れるだけでなく、信じる者の

うちに住んでくださることを表わしています。

さらに、この炎は「舌」の形をしていました。「舌」は英語で“tongue”で、「言葉」を意味しています。日本語でも「舌を巻く」というと「言葉が出ない」という意味になり、「舌が回らない」というと「言葉がはっきりしない」という意味になります。しかし、聖霊が炎の舌となって弟子たちに降ったとき、弟子たちは「舌が回らない」どころか、神の素晴らしいみわざを、さまざまな国の言葉で、流暢に語る事ができたのです。それには、人々が「舌を巻く」ほどでした。

ペンテコステは「初穂」をささげる祭りの日でしたので、大勢の人々が外国からエルサレムに来ていました。西はローマや地中海の島クレテから、北は黒海近くのポントス、小アジアのフリュギア、パンフリア、カパドキア、それにメソポタミアから、南はアラビア、エジプト、アフリカ大陸のリビアやクレネからの人々が来ていました。その誰もが、自分たちの国の言葉で神の言葉を聞きました。しかも、それを話しているのは、学問もなく外国語を学んだこともないような人たちでしたから、皆は、そのことにも驚きました。

弟子たちは、9日の間に、こっそり外国の言葉を勉強していたのでしょうか。いいえ、たった9日で、現地の人も驚くほどに喋れるようになるわけがありません。弟子たちがさまざまな国の言葉で語り出したのは聖霊によるものでした。神の言葉、イエス・キリストの救いの福音が、世界中のすべての人たちに宣べ伝えられるようになることを表わすものでした。

このように、教会は聖霊によって生み出されました。「聖霊」は、使徒信条では、「主は聖霊によりてやどり」と、「我は聖霊を信ず。聖なる公同の教会……」の2箇所に出てきま

す。聖霊はイエスの誕生と教会の誕生の両方にかかわっています。イエスは母マリアからお生まれになりましたが、人の力によってでなく、聖霊によってお生まれになりました。同じように、教会は、その多くがガリラヤから来た 120 名の男女から始まりましたが、彼らによってではなく聖霊によって生まれたもののなのです。そうでなければ、ペンテコステの日のうちに 3,000 人もの大きな群れになることはありません。120 人から 3,000 人になったのですから、教会はたった 1 日で一挙に 250 倍になったのです。聖霊はじつに生み出すお方、命を与え、命を育むお方です。教会はこの聖霊から生まれたものです。それは、イエス・キリストを信じて聖霊によって新しく生まれた神の子たちの家族です。

二、聖霊と愛

さて、ここで 2 問目です。

クイズ 2. 聖霊は弟子たちにどんな力を与えましたか？

- A. ローマ兵と戦う力
- B. 神と人を愛する力
- C. 人々に取り入る力

正解は「B. 神と人を愛する力」です。

聖書には「聖霊の賜物」として、「知恵のことば」、「知識のことば」、「信仰」、「癒やし」、「奇跡を行う力」、「預言」、「霊を見分ける力」、「種々の異言」、「異言を解き明かす力」などが挙げられています（コリント第一 12:8-10）。けれども、最大の賜物は、聖霊ご自身です。ペテロはペンテコステの日の説教でこう言いました。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプ

テスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」（使徒 2:38）英語では “You will receive the gift of the Holy Spirit” となっていて、聖霊ご自身が神から私たちへの「賜物」（ギフト）だと言われています。知恵、知識、癒やし、奇跡、預言、異言などの「聖霊の賜物」は決して軽んじらてはなりません。知恵、知識、癒やし、奇跡、預言、異言などはそれぞれ聖霊の現れに過ぎません。それよりもっと尊いものは、賜物の与え主である聖霊です。

聖霊からいただく知恵や力は私たちに与えられた努めを果たすために必要なものです。しかし、人は、どんなに知恵や力を得ても、また、癒やしや預言、異言などの賜物を持っていたとしても、それだけでは、他の人を生かし、助けることはできません。聖霊が与えてくださる「賜物」と呼ばれる能力だけでなく、人格の中に結ばれる「御霊の実」が伴わなければならないのです。「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」（ガラテヤ 5:22-23）などは、人格の実ですが、同時に、日々に私たちを生かし、人生を導く力でもあるのです。私たちが幸いな人生を送るためには、神と人を愛する「愛」の力、真理を喜ぶ「喜び」の力、恐れを取り除く「平安」の力、嫌なことをされてもそれをゆるす「寛容」の力、他の人に優しく接する「親切」の力、進んで人の善を願う「善意」の力、偽りやごまかしのない「誠実」の力、神と人の前にへりくだる「柔和」の力、誘惑に負けない「自制」の力が必要です。そうしたものがなければ、賜物によって与えられた能力を生かし、神のために用い、人のために役立てることができません。

御霊の第一のものは「愛」で、「愛」には他の 8 つのものが含まれています。コリント人への第一の手紙 13 章は、愛

について1章全部を費やしていますが、その結論に「こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です」と言っています。そして14:1では、「愛を追い求めなさい」と勧めています。私たちが熱心に追い求めるべきもの、それは「愛」、聖霊が与えてくださる愛です。

三、聖霊と祈り

では、3問目、最後のクイズです。

クイズ3. 教会に加えられた人たちは何に励みましたか？

- A. 施しと断食
- B. 教会堂建築と慈善事業
- C. 御言葉、交わり、礼拝、祈り

正解は「C. 御言葉、交わり、礼拝、祈り」です。42節に「彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた」とあります。「使徒たちの教え」とは御言葉、聖書のことです。使徒たちは聖書に基づいて教え、使徒たちの書いたものは聖書に加えられました。「交わり」とは信仰者の相互のつながりのことです。「パン裂き」(The Breaking of Bread)とは「主の晩餐」(聖餐)のことですが、広い意味では御言葉と祈りによる礼拝も意味しています。もう一つの祈りについては説明がいらないでしょう。「御言葉」、「交わり」、「礼拝」、「祈り」は教会を建て上げている四本柱といってもよいでしょう。

42節の「いつも……していた」というのは、「専念する」という意味です。教会は「使徒たちの教え」と、「交わりと」、「パン裂き」と、「祈り」との4つのことに「専念していた」

のです。同じ「専念する」という言葉は使徒 1:14 でも使われています。「彼らはみな、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちとともに、いつも心を一つにして祈っていた」とあり、「いつも……祈っていた」というところで使われていました。聖霊は人々が9日の間祈りに「専念した」のちに与えられたのですが、聖霊によって生まれた教会はその後、祈りに専念し続けました。一人ひとりが個人で祈り、また教会で他の人と一緒に祈りました。使徒たちが迫害を受け捕まえられたときなどは、ともに集まって祈りました。そのような祈りによって、教会は神から与えられた努めを果たしていったのです。時代が変わり、教会には様々な働きが求められるようになりました。とくにアメリカでは多くの活動が取り入れられ、教会はあれやこれやで忙しい場所になりました。どの活動も大切なもので、みんなやめてしまって祈りだけに専念すればよいとわけではありませんが、もし、祈りがどの集会や活動の根底になければ、それらは世の中の事業と同じになってしまいます。祈りが集会の開始や終了の合図のようになってしまってはなりません。それは、私たち一人ひとりの生活にも当てはまります。仕事、家事、たとえ趣味であったとしても、それは祈りから始まらなければなりません。「彼らは祈りに専念していた。」この言葉を覚えていたいと思います。

ペンテコステは「教会の誕生日」です。私たちが誕生日を祝うとき、神が、私をこの世に生まれさせ、この年まで生かしてくださったことを感謝し、次の1年を守ってくださるようお願い、この後の人生を委ねます。それは教会の場合も同じです。教会は誕生してから2千年も経ちました。しかし、老いることはありません。聖霊によって日々新しくされているからです。

教会が保ってきた福音は古びることはありません。それは人を救う変わらない真理です。聖徒たちの交わりは絶えることはありません。形式は変わっても真実な礼拝は今も捧げられています。そしてなにより祈りは途絶えることなく続いています。ときとして教会も罪を犯すことがあります。霊的な力を失い、真理を見失うこともあるでしょう。しかし、そうしたたびに、聖霊は教会の聖徒たちを励まして、祈りを盛んにしてくださいました。教会は祈りによって再び息を吹き返し、世に神の恵みの愛を証ししてきたのです。このペンテコステに、私たちも、神が教会を守り、導かれたことを感謝するとともに、教会が今も、聖霊によって新しくされ、福音を伝え、それを証しし、より多くの人が神の子どもとなり、神の家族である教会に加えられるよう祈り求めたいと思います。

（祈り）

父なる神さま、長い歴史を持ち、全世界に広がる教会の中で、私たちはほんのわずかな年月と限られた場所での教会にしかかかわることはありません。しかし、それは地上でのことで、天に目を向けるとき、私たちはキリストをかしらとする一つの大きな教会を通して、全時代の全世界の聖徒たちとの交わりを与えられています。教会を通して与えられる御言葉と交わり、礼拝と祈りによって、私たちを養い育ててください。私たちもまた教会が絶えず御霊の命で生かされ、新しくされるよう祈り求めます。イエス・キリストのお名前でお前にささげます。